

平成23年4月4日発行

会員各位

協会だよりー220(4月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

<トピックス>

- 第36期(平成23年度)定期総会の開催は日時：4月27日(水)13時30分～15時00分
場所：JXグループ六本木クラブ会議室で行われます。大震災による諸事情より懇親会は中止し、総会のみで開催といたします。
- 第23回JSCRA会(協会ゴルフコンペ)日時：3月24日(木)場所：中山カントリークラブは大震災による諸事情で中止といたしました。



事務局の在るニュー新橋ビル6階601-A 西側窓より望む東京タワー。タワーまで直線距離で2kmほど離れています。3月11日の地震でタワーの先端が曲がったそうです。



1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① **協会だよりー219 (3月号)** をメール&郵便で送信 (3/1)
- ② 2010年分の資源化実績報告依頼の発送。(3/1)
- ③ 第2回調査・技術委員会
日時：3月3日(木)15:30～17:00
場所：日興リカ株会議室

一. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

【予定事項】

二. 新規入会会員の紹介

会員の異動(退会)

三. 事務局より(四年度の予定)

四. 【雑字】発祥地X

(官字掬籃の地)

● 東京大学工学部
(工部大学校)

● 千葉大学工学部
(東京高等工芸学校)

● 千葉大学工学部
(東京高等工芸学校)

議題：2010年度版資源化実績報告書作成方針、他。

④ 第8回運営委員会

日時：3月18日(金) 15:30～17:00

場所：堺化学工業(株)会議室

議題：2011年度の月例会(見学会、講演会)の運営方針、他。

[予定事項]

① 平成22年度・会計監査

日時：4月6日(水) 15時00分～17時00分

場所：太陽鋳工(株)会議室

② 第三回役員会

日時：4月11日(月) 10時30分～12時00分

場所：(株)徳力本店会議室

議題：総会議案書案の最終検討、他

③ 第36期定期総会資料・委任状の送付予定(4/12)

④ 第36期(平成23年度)定期総会の開催

日時：4月27日(水) 13時30分～15時00分

場所：JXグループ六本木クラブ会議室

議題：平成22年度事業報告、平成22年度収支決算、会計監査報告、会則の一部改正(案)、平成23年度事業計画(案)、平成23年度収支予算(案)、役員・委員の紹介。

2. 新規入会会員の紹介 [敬称略]

- 三菱マテリアル株式会社殿が4月1日付けで入会されました。以下にご紹介いたします。会員の皆様宜しくお願ひ申し上げます。

【本社所在地】 〒100-8117 東京都千代田区大手町1-3-2

【資本金】 1194億5千7百万円 【従業員数】 4,730人

【代表者】 常務取締役 銅事業カンパニープレジデント 加藤 敏則

【協会担当者】 主・浅見 誠 (銅事業カンパニー リサイクル部 課長)

副・高木真言 (銅事業カンパニー リサイクル部 課長代理)

副・石井 惑 (銅事業カンパニー リサイクル部 係長)

【主なる事業内容】 非鉄金属、貴金属、セメント、超硬工具、電子製品等の製造・販売

【資源化事業内容】 各種スクラップからの非鉄金属、貴金属回収

3. 会員の異動 (退会)

日本キャタリストサイクル株式会社殿が3月31日をもって退会されました。

代表取締役社長 友田勝博様よりご挨拶をいただいておりますのでその一部をご紹介します。

～ “すでにご案内のとおり、弊社は平成23年3月(目途)を以って使用済触媒からの金属回収事業を終結し、その後会社清算を行う所存です。つきましては平成23年3月末日を以って貴協会を退会致したく、お届けいたします。” ～立田豊様、宍戸建様、これからも機会がありましたら事務所へお立ち寄りください。協会の御担当御協力有難うございました。

4. 事務局より (4月度の予定)

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	3/28	3/29	3/30	3/31	1	2
	×	○	○	×	×	×
2週	4	5	6	7	8	9
	○	○	会計監査	×	○	×
3週	11	12	13	14	15	16
	第3回役員会	○	×	×	○	×
4週	18	19	20	21	22	23
	×	○	×	×	○	×
5週	25	26	27	28	29	30
	×	○	第36期総会	×	昭和の日	×

事務局延べ出勤予定：11日 (○；終日、△；半日、×は休日)。

5. 【雑学】発祥の地X (官学揺籃の地)

今回紹介する学校は単科の官立高等教育機関として独立して設立されましたが、その後総合大学の一学部(工学部)となった東京大学工学部(工部大学校)と千葉大学工学部(東京高等工芸学校)を紹介します。

【東京大学工学部】

東大工学部は明治4年工部省工学寮として設立され明治10年工部大学校と改称された学校を起源としています。発祥の地は現在の千代田区霞ヶ関3-2-1霞ヶ関コモンゲート西館(文部科学省新館)敷地内です。帝国大学の他の学部は神田一ツ橋の学士会館の場所を起源としています。工部大学校はその後工部省より文部省に移管、明治19年に帝国大学に併合され本郷に移転し帝国大学工科大学となりました。名称は東京帝国大学工学部を経て、第二次大戦終了後の学制改革で東京大学工学部となり現在に到っています。

このモニュメントはメトロ銀座線の虎ノ門下車5番、6番出口よりすぐの場所にあります。



左は文科省の入る霞ヶ関コモンゲート。その前庭に関東大震災時の瓦礫で造ったといわれる工部大学校のモニュメント(昭和14年作成)が設置されている。コモンゲート完成後の平成22年に補修設置された。



千代田区指定有形文化財(歴史資料)

工部大学校 趾碑

霞ヶ関コモンゲートの一帯、すなわち江戸時代の虎門内延岡藩邸を中心とした地域は、日本の工学発祥の地です。

明治6年(1873)、工業分野における日本人の人材育成を目的として工学校(工学寮内に設置)が開校し、同10年(1878)には工学寮が工部大学校と改称されました。工部大学校では、土木、機械、造家などの学科が、イギリ

スから招聘された外国人教師によって教授されていました。しかし同校は明治19年(1886)に帝国大学と合併してその工科大学となりました。現在の東京大学工学部の前身です。

工部大学校の移転後、同校校地及び建物は、帝室博物館、東京女学館などが使用しました。しかし、大正12年(1923)関東大震災で工部大学校以来使用されていた建物も倒壊してしまいました。その後、この土地には会計検査院などの建物が建築されたため、当時の面影がなくなりました。そこで工部大学校出身者たちは、かつてこの地に同大学校があったことを記念して、昭和14年(1939)「工部大学校趾碑」を建設しました。裏面碑文によれば本碑の素材には関東大震災の際に倒壊した建造物の煉瓦などが用いられています。

「工部大学校趾碑」は、千代田区内において日本最初の工業技術教育機関が設置された場所を示しつつ、その歴史を後世に語りかけてくれます。さらに震災で倒壊した建造物の廃材を素材としていることで、震災によって大きな打撃をうけた千代田区の歴史をも伝えてくれているのです。

平成6年3月 千代田区教育委員会(平成22年10月補修)

【千葉大学工学部】

千葉大学工学部の前身は、大正10年(1921)12月に港区芝浦(現在の東工大大田町キャンパス)に設立された東京高等工芸学校を起源としています。昭和19年(1944)東京工業専門学校と改称し、昭和20年(1945)5月の空襲で焼失し、千葉県松戸市に移転を余儀なくされました。この千葉移転が東京工専でありながら千葉大学の一学部になる要因となりました。



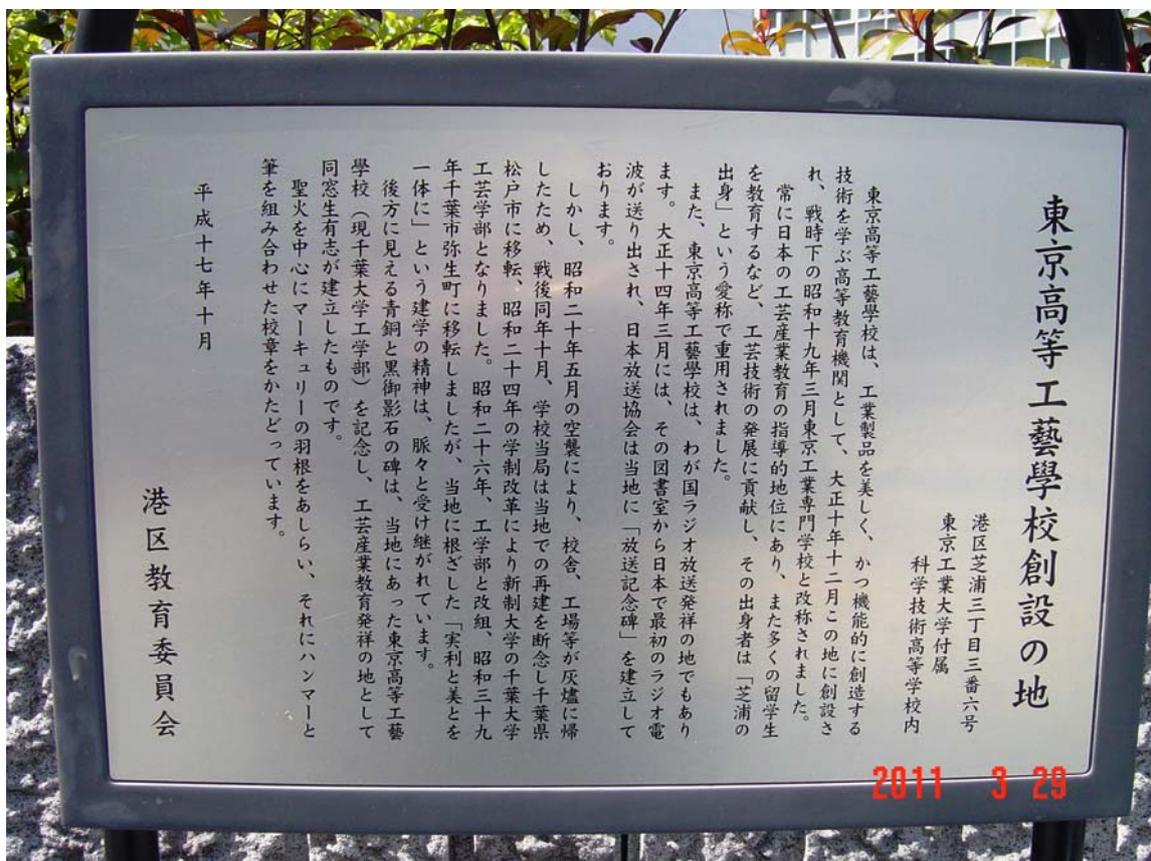
東工大大田町キャンパス



東京高等工芸学校創設の地

この碑文はキャンパス敷地内に設置されているため文面は判読できないが、色々調べると校章をかたちどったものである。この地は現在、東工大付属科学技術高等学校とインキュベーションを主とした東工大大田町キャンパスが同居している。

キャンパス敷地の外側には港区教育委員会が設置した標柱と説明版が有り、それに経緯が詳しく書いてありますので添付いたします。



碑文を訪ねるには JR 山の手線又は京浜東北線の田町駅下車東口(芝浦側)より徒歩1分です。

千葉大学工学部は昭和39年松戸より移転し、現在千葉市稲毛区弥生町1-33の本部のある西千葉キャンパスに所在している。西千葉キャンパスは JR 総武線西千葉駅の駅前という立地に恵まれた場所にある。

【文責：専務理事】